



この町にもわたしの民が

前回のレターから随分時が経ってしまいましたが、いかがお過ごしでしょうか。皆さまの日々のお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。ブラジルは秋から冬に向かい、通りには日本の桜に似た「パイネイラ」の木が薄紅色の花を見事に咲かせています。日本は紫陽花の綺麗な時期でしょうか。

世界はなお戦争が続き、先行き不透明な状況にありますが、ブラジルも10月の大統領選挙に向けて国が二分するような対立議論が続いています。6月はサッカーW杯でブラジル中が熱狂することでしょうが、国の抱える政治的課題は山積みで、祈りが必要です。

さて、私たちが現在力を入れているヴァルゼンボニータの伝道について、引き続きお祈りください。

毎週礼拝ができる会堂をと祈りつつ、いくつかの物件を当たっていますが、スペースや家賃の問題で未だ適当な場所に出会っていません。何よりも集会に集っている一人ひとりの信仰が成長し、共にキリストのからだを建てあげていこうとの思いが与えられるように祈っています。

6月から、ヴァルゼンボニータの人々を中心としたオンラインでの祈禱会をスタートします。また、日本人会館のコートを借りてフットサル教室の可能性を祈っています。日系家庭ばかりか、ヴァルゼンボニータ全域に目を向けて、地域に密着した伝道をしていきたいと願っています。

つい先日は、連邦区で一番の生産量を誇るヴァルゼンボニータの「しょうが」祭りに参加しました。「町おこし」の一つともいえるこの祭りには、和太鼓のチームの演奏もあり、大勢の人が集まっていました。教会はこの町にどのような祝福を与えることができるだろうかと妻と話しています。最近、ヴァルゼンボニータの農家の人たちが作った野菜を買うことで、顔見知りとなり、信頼関係が生まれています。毎月の訪問とガレージ礼拝、日本人会館での書道教室も続けていますが、神の時にかなって「教会」が誕生するように引き続き祈っていただくと心強いです。

ブラジリア教会では、4月19日の礼拝で7名が洗礼を受けました。私の日本語学校の元生徒とそのお母さんも受洗し、大きな喜びがありました。

「恐れなくて語り続けなさい」（使徒18:9）との御声を私も聞いています。恐れや不安、揺らぎというものは事あるごとに襲ってきます。しかし、主に信頼し、御霊によって語り続けていくところに、主の恵みを経験します。すでにこのヴァルゼンボニータには主を求めるたましいが大勢集められています。この町にも「わたしの民がたくさんいる」（使徒18:10）と主は御声をかけてくださいます。

日本の諸教会の兄弟姉妹、どうか祈って下さい。主の心こころが実現し、主の栄光を見ることができるよう。



桜のようなパイネイラ
ヴァルゼンボニータの礼拝
日系一世・二世の婦人たち

しょうが祭り
書道教室
7名の洗礼式

近況と祈りのお願い

- ・ヴァルゼンボニータに主の祝福が注がれ、教会が誕生するように
- ・高齢の日系一世たちとその家族が御救いにあずかるように。
- ・家族の健康と経済、四人の子どもたちの学びと進路のために。

献金のご報告と感謝

2025年12月（決算）

12月分（累計1-12月）
 指定献金: 366,900円 (2,688,672円)
 現地支援: 87,000円 (921,050円)
 合計: 453,900円 (3,609,722円)

達成率88% (目標額410万円)

2026年1-4月

(1-4月分)
 指定献金: 648,367円
 現地支援: 296,189円
 合計: 944,556円

2026年目標額: 410万円

みなさまの尊いご献金に心から感謝申し上げます。
2026年も昨年と同様の予算ですが、引き続きお支えください。